

2011年度 一般1月入学試験

世界史

〔注 意 事 項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は15ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があってから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

世界史

(60分 100点)

I キリスト教の成立と展開について述べた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。(40点)

1 を総本山とするローマ＝カトリック教会の最高権威であるローマ教皇は、使徒ペテロの後継者をもって自任する。イエスの処刑後、イエスの教えはペテロら使徒によって広められ、イエスの言行や使徒たちの活動を記した『 2 』がまとめられていった。しかし、イエスをキリスト(救世主)と信じるキリスト教徒はたびたび迫害され、特に3世紀後半に即位し、ドミナトゥスを創始した 3 帝によって多くの信徒が迫害を受けた。それにもかかわらず、キリスト教は貧困層から富裕な階層にまで広がり、ついに313年にはコンスタンティヌス帝が発した 4 によってキリスト教は公認され、教義の統一も図られた。

4世紀後半からゲルマン人の大移動がはじまり、ローマ帝国の分裂、西ローマ帝国の滅亡といった激動を経てのち、ローマ教皇は聖なる世界の権力だけでなく世俗の権力も兼ね備えた存在へと変質していった。教皇領はフランク王 5 がラヴェンナ地方を寄進したことにはじまり、時代とともに拡大し中部イタリアに勢力を構えるようになった。勢力を増したローマ教皇は、折からの修道院による刷新運動を追い風に、11世紀後半から、神聖ローマ皇帝と 6 をめぐって争い、1077年には皇帝 7 をイタリアのカノッサで屈服させた。同世紀末、セルジューク朝の侵攻に苦慮するビザンツ皇帝から援軍を求められた教皇ウルバヌス2世は、8 宗教会議において聖地奪回をよびかけた。翌年第1回十字軍が組織され、以後約200年にわたって断続的な遠征が続けられた。

7 教皇権は、13世紀初頭に絶頂期をむかえたが、十字軍の失敗や国王による中央集権化の中でしだいにかけりを見せるようになる。14世紀に入ると、教皇ボニファティウス8世は教皇権の王権に対する優位を主張してフランス王フィリップ4世と争って敗れ、フィリップ4世はさらに教皇庁をフランスの 9 へと移転させ

た。この状態は70年ほどで終わったが、イタリアへ戻った教皇に対し、にはフランスに後押しされて対立教皇がたてられ、教会大分裂（大シスマ）とよばれる両教皇の対立は約40年にわたって続いた。

16世紀、の建築費を捻出するためローマ教皇が贖宥状を販売すると、ルターが「」を提出して抗議し、これがきっかけとなって宗教改革の嵐がヨーロッパ各地で吹き荒れた。ローマ教皇は対抗宗教改革とよばれる巻き返しに努め、教皇の認可を受けたイエズス会はヨーロッパ以外の地域にも積極的な宣教活動⁽¹⁰⁾をくりひろげた。こうしてキリスト教の新たな展開がはじまった。

問1 文中の空欄 ～ に入る語句として適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。 ～

- | | | |
|--------------------------------|------------|--------------|
| <input type="text" value="1"/> | ① ピサ大聖堂 | ② サン＝ピエトロ大聖堂 |
| | ③ サン＝マルコ聖堂 | ④ ノートルダム大聖堂 |

- | | | |
|--------------------------------|----------|--------|
| <input type="text" value="2"/> | ① 新約聖書 | ② マヌ法典 |
| | ③ アヴェスター | ④ コーラン |

- | | | |
|--------------------------------|----------|--------------|
| <input type="text" value="3"/> | ① ネロ | ② デイオクレティアヌス |
| | ③ ハドリアヌス | ④ ユリアヌス |

- | | | |
|--------------------------------|------------|---------|
| <input type="text" value="4"/> | ① ホルテンシウス法 | ② 十二表法 |
| | ③ 金印勅書 | ④ ミラノ勅令 |

- | | | |
|--------------------------------|----------|------------|
| <input type="text" value="5"/> | ① クローヴィス | ② カール＝マルテル |
| | ③ ピピン | ④ カール大帝 |

- | | | |
|--------------------------------|-----------|------------|
| <input type="text" value="6"/> | ① 聖地管理権問題 | ② 教会への課税問題 |
| | ③ 不輸不入権 | ④ 聖職叙任権 |

問4 文中の下線部(3)に関連して、次の問いに答えなさい。彼が遷都したコンスタンティノープルは、もとはギリシア人によって建設されたものであった。もとの名称として正しいものを次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

13

- ① ネアポリス
- ② ビザンティウム
- ③ ニカイア
- ④ マッサリア

問5 文中の下線部(4)に関連して、325年の公会議で異端として追放され、ゲルマン人の間に広まった一派を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

14

- ① アリウス派
- ② アタナシウス派
- ③ コプト派
- ④ ネストリウス派

問6 文中の下線部(5)に関連して、ビザンツ帝国の歴史として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

15

- ① ユスティニアヌス帝は領土の回復に努め、ランゴバルド王国を滅ぼした。
- ② 正統カリフ時代のイスラーム教徒にエジプトを奪われた。
- ③ ヘラクレイオス1世は、聖像禁止令を出し、聖像の作製や崇拝を禁止した。
- ④ 帝国の末期には軍管区制が広まり、分権化がすすんだ。

問7 文中の下線部(6)に関連して、この時、十字軍によって建設された国を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

16

- ① イェルサレム王国
- ② ノヴゴロド国
- ③ ブルグンド王国
- ④ モラヴィア王国

II アジア諸帝国の興隆について述べた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

(30点)

ヨーロッパの進出以前にアジアに繁栄したオスマン帝国・サファヴィー朝・ムガル帝国は、いずれも多くの民族、異なった宗教の人々が共存する社会であった。

13世紀末に小アジアで建国されたオスマン帝国の起源はトルコ人の遊牧集団であったが、スルタンを頂点とする支配機構をととのえ、イスラーム世界に君臨した。⁽¹⁾15世紀初頭にティムールに敗れたが、その後急速に勢力を拡大し、15世紀半ばにはビザンツ帝国を、⁽²⁾そして16世紀に入るとメッカを領有する [21] を滅ぼした。オスマン帝国軍の主力は、宗派を問わず [22] 制によって土地の徴税権を与えられた騎兵と、主にキリスト教徒の子弟から徴発された歩兵軍団であるイエニチェリであった。

オスマン帝国の最盛期のスルタンである [23] は、ハンガリーを征服した後、1529年には [24] を包囲し、地中海においても1538年に [25] 海戦でローマ教皇・スペインなどの連合軍を破った。帝国はアジア・アフリカ・ヨーロッパにまたがり、その存在が、ヨーロッパ諸国の国家形成や対外政策に大きな影響を与えた。⁽³⁾しかし、18世紀以降は西欧列強の外圧にさらされ、域内のアラブ人やキリスト教徒の自立の傾向⁽⁴⁾が顕著になっていった。

ティムール朝が衰退した後のイラン地方⁽⁵⁾にはサファヴィー朝が成立した。王朝は、当初はトルコ系の遊牧集団の軍事力に依存していたが、やがてイラン伝統の君主を意味する「シャー」をもちい、シーア派を国教とした。16世紀末に即位した王朝最盛期の君主 [26] が築いた新首都イスファハーン⁽⁶⁾は「世界の半分」と称され、ヨーロッパからの訪問者を驚愕させた。

ティムール朝の王族であるバーブルは、北インドに侵入し、1526年に [27] の戦いでロディー朝を破り、建国した。バーブルらはトルコ系であったが、バーブルが端緒を開いたこの帝国は、「モンゴル」を意味する「ムガル」を冠してムガル帝国とよばれる。帝国の第3代皇帝のアクバルは、首都をアグラに移し、官僚機構を整備するとともに、多数派を占める [28] 徒との融和に努めた。しかし、最大版図を築いた第6代皇帝のアウラングゼーブの死後、帝国の解体がすすみ、各地

に独立政権がうまれた。それとともにヨーロッパ諸国の進出も激しくなり、ムガル(7)帝国は、19世紀後半にイギリスによって滅ぼされた。

問1 文中の空欄 21 ~ 28 に入る語句として適当なものを、次の①~④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。 21 ~ 28

- | | | |
|----|-------------|---------------|
| 21 | ① サーマーン朝 | ② ムワッヒド朝 |
| | ③ ゴール朝 | ④ マムルーク朝 |
| 22 | ① ミット | ② ティマール |
| | ③ マンサブダール | ④ ザミンダーリー |
| 23 | ① セリム1世 | ② スレイマン1世 |
| | ③ メフメト2世 | ④ アブデュル=ハミト2世 |
| 24 | ① パリ | ② ベルリン |
| | ③ ウィーン | ④ ワルシャワ |
| 25 | ① レパント | ② サラミス |
| | ③ アクティウム | ④ プレヴェザ |
| 26 | ① アッバース1世 | ② レザー=ハーン |
| | ③ イスマーイール1世 | ④ パフレヴィー2世 |
| 27 | ① ニコポリス | ② パーニーパット |
| | ③ アンカラ | ④ プラッシー |
| 28 | ① シク教 | ② ヒンドゥー教 |
| | ③ 仏教 | ④ ジャイナ教 |

問2 文中の下線部(1)に関連して、1055年にバグダードに入城し、カリフからスルタンとして公認された人物を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

29

- ① ハールーン＝アッラシード ② トゥグリル＝ベク
③ アブド＝アッラフマーン3世 ④ ウルグ＝ベク

問3 文中の下線部(2)に関連して、ティムールによってティムール帝国の都とされ、空前の繁栄をむかえた西トルキスタンの都市を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

30

- ① サマルカンド ② プルシャプラ
③ タブリーズ ④ ガズナ

問4 文中の下線部(3)に関連して、オスマン帝国がフランスをはじめとしてヨーロッパ諸国に与えた通商上の特権を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

31

- ① デウシルメ ② タンジマート
③ カピチュレーション ④ アーヤーン

問5 文中の下線部(4)に関連して、18世紀のアラビア半島に、サウード家とイスラーム教の改革派によって建設された国家を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

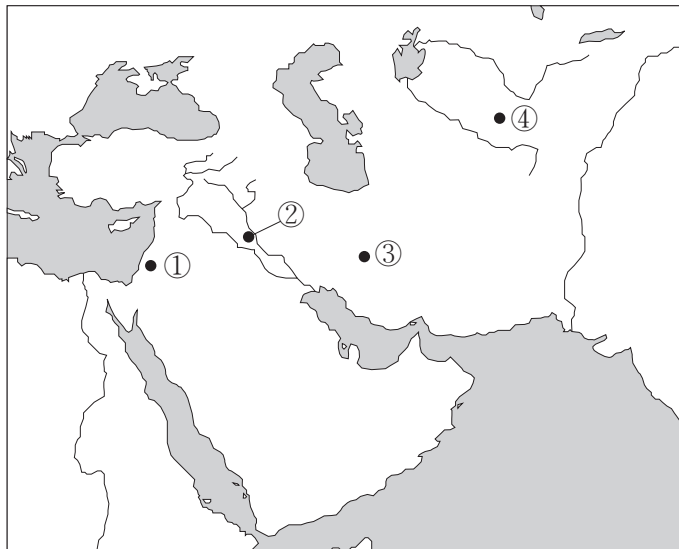
32

- ① ヨルダン王国 ② ヒジャーズ王国
③ モノモタパ王国 ④ ワッハーブ王国

問6 文中の下線部(5)に関連して、イラン地方におこった国家についての説明として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 33

- ① アケメネス朝のダレイオス3世はギリシアに侵攻し、ペルシア戦争をおこした。
- ② パルティアはクテシフォンを都として繁栄した。
- ③ ササン朝では、マニ教が国教とされた。
- ④ ブワイフ朝はスンナ派を信奉し、カリフの実権を奪った。

問7 文中の下線部(6)の位置として正しいものを、次の地図中の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 34



問8 文中の下線部(7)に関連して、インドの植民地化に関する次の a～c のできごとの年代配列（古い順）として正しいものを、下の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

35

- a インド人傭兵の反乱から、インド大反乱がおこった。
- b イギリス王が皇帝となるインド帝国が成立した。
- c 皇帝が追放され、ムガル帝国が滅亡した。

- ① c → b → a ② a → c → b ③ b → a → c ④ b → c → a

Ⅲ 東南アジアの歴史について述べた次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

(30点)

東南アジアは大陸部と諸島部で構成され、モンスーン（季節風）を利用する海上交易や稲作などを基盤として、諸国家が形成されてきた。

東南アジア最古とされる国家は、1世紀末にメコン川下流域に建国された [36] である。外港オケオからはローマの金貨などが発掘されており、当時の交易の広がりをうかがわせる。2世紀末には、ベトナム中部にチャンパーが、6世紀にはカンボジア内陸にクメール人の国家が成立した。カンボジアでは、12世紀に王墓であり寺院である [37] が建造されたことがよく知られている。

諸島部では、7世紀にマラッカ海峡が主要な海上ルートとなると、その海域を支配する国家が繁栄した。スマトラ島にはシュリーヴィジャヤが成立し、唐僧 [38] がインドへの往復の途中に滞在した。ついで8世紀、ジャワ島にはシャイレンドラ朝が成立し、繁栄した。

10世紀末以降、宋のもとで中国経済が回復すると南海貿易は活発化し、東南アジアの各地域にさまざまな国家が成立した。⁽¹⁾ベトナム北部では、11世紀の李朝成立以降いくつかの王朝が交替し、タイやミャンマーにも国家が建設された。諸島部では、ジャワ島の [39] が14世紀後半には今日のインドネシアのほぼ全域を支配下においた。14世紀末にはマレー半島南部にマラッカ王国が成立した。マラッカ王国は、明とのかかわりを背景に周辺国の脅威をしりぞける一方、国王が [40] に改宗するなど西方の地域とのかかわりも深めた。⁽²⁾そして、 [40] は諸島部にも広まっていった。

15世紀にはじまる大航海時代、世界的に商業が活発化すると、諸島部で生産される [41] の輸出が大幅に伸び、貿易の利益をめぐってヨーロッパ勢力や新興の交易国家が争った。1511年にマラッカ王国がポルトガルに占領されたが、アチェ王国などが勢力を伸ばして対抗した。

18世紀後半から19世紀にかけて、大陸部の諸王朝に大きな変動があった。ベトナム・ミャンマー・タイに新王朝が成立し、これらの国家は清朝に朝貢した。ヨーロッパ勢力の東南アジア政策は、初期の [41] ⁽³⁾獲得の商業権益からしだいに領土

の獲得へと移行し、植民地では一次産品生産が行われ、生産物が世界市場で取り引きされた。こうして⁽⁴⁾植民地化していった東南アジアの中であって、タイは、19世紀中ごろからイギリス・フランスの圧迫を受けながらも、1880年代からは のもとで近代化改革を行い、緩衝地帯として独立を維持した。

19世紀末から20世紀における帝国主義の時代、東南アジアでも植民地支配に対する民族運動がおこった。フィリピンではスペインへの抗議運動が弾圧されたが、アメリカ＝スペイン戦争中に を大統領とする共和国が成立した。しかし、戦後アメリカはこれを認めず、フィリピンはアメリカの植民地となった。ベトナムではファン＝ボイ＝チュウらが⁽⁵⁾ドンズー運動をおこすが、宗主国の弾圧を受けて失敗した。

第二次世界大戦中に日本に占領された東南アジアの諸地域では、戦後、民族運動や抗日運動を基礎に、フィリピン・インドネシア・ビルマ・マラヤ連邦・ベトナム ⁽⁶⁾⁽⁷⁾などが独立を果たしていった。

問1 文中の空欄 ～ に入る語句として適当なものを、次の①～④の中からそれぞれ1つずつ選びマークしなさい。 ～

- | | | | | |
|-----------|---|------|---|--------|
| 36 | ① | パガン朝 | ② | スコータイ朝 |
| | ③ | 真臘 | ④ | 扶南 |

- | | | | | |
|-----------|---|-----------|---|--------|
| 37 | ① | アンコール＝ワット | ② | ワヤン |
| | ③ | ボロブドゥール | ④ | プランバナナ |

- | | | | | |
|-----------|---|----|---|----|
| 38 | ① | 法顕 | ② | 玄奘 |
| | ③ | 義浄 | ④ | 達磨 |

- | | | | | |
|-----------|---|----------|---|--------|
| 39 | ① | マジャパヒト王国 | ② | シンガサリ朝 |
| | ③ | マタラム王国 | ④ | クディリ朝 |

問4 文中の下線部(3)に関連して、タリム盆地のジュンガルを滅ぼした清の皇帝を、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 46

- ① 順治帝 ② 康熙帝 ③ 雍正帝 ④ 乾隆帝

問5 文中の下線部(4)に関連する記述として正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 47

- ① ポルトガルは、ジャワ島でコーヒー・サトウキビなどを栽培させた。
② イギリスは、マレー半島のすず鉱山の開発やゴムの栽培を行った。
③ スペインは、フィリピンのルソン島で小麦・テンサイなどを栽培させた。
④ フランスは、ミャンマーで米のプランテーション栽培を行った。

問6 文中の下線部(5)は新しい学問や技術を学ばせるために留学生をおくり出す運動であるが、その留学先はどこだったか。次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 48

- ① 日本 ② フランス ③ アメリカ ④ イギリス

問7 文中の下線部(6)はのちに他の地域と合体してマレーシア連邦となったが、一部の地域は中国系住民が多くを占めていたため政府のマレー人優先政策に反発して、1965年に連邦から分離独立した。その地域はどこか。次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。 49

- ① スリランカ ② シンガポール
③ 東ティモール ④ バングラデシュ

問8 文中の下線部(7)に関連して、第二次世界大戦後のベトナムをめぐるできごととして正しいものを、次の①～④の中から1つ選びマークしなさい。

50

- ① フランスは、ベトナム民主共和国のバオダイを支持した。
- ② フランスは、ディエンビエンフーでの敗北を機に、ベトナムから撤退した。
- ③ アメリカは、南ベトナムのシハヌーク政権を支持した。
- ④ アメリカは、ジュネーヴ休戦協定を結び、ベトナムから撤退した。